

# 2025年3月期 第2四半期決算説明会



2024年11月

株式会社DNAチップ研究所

DNA Chip Research Inc.

<https://www.dna-chip.co.jp>

# Contents

## I. 第2四半期累計決算概要及び

### 2025年3月期計画

- I-1. 決算サマリー
- I-2. 全社業績推移
- I-3. 研究受託事業 業績推移
- I-4. 診断事業 業績推移
- I-5. DNAチップ研究所の事業方針
- I-6. 本社移転
- I-7. 2025年第2四半期実績と

### 2025年3月期業績予想



## II. 今後の事業について

- II-1. DNAチップ研究所の方向性
- II-2. 肺がんにおけるコンパニオン診断の課題
- II-3. 肺がんコンパクトパネル（7遺伝子化）
- II-4. 肺がんコンパクトパネルアカウント登録施設数
- II-5. DNAチップ研究所の特徴
- II-6. 2024年度 論文等発表・特許取得状況
- II-7. 診断事業売上拡大へ向けて

# I. 第2四半期累計決算概要及び 2025年3月期計画

ライフサイエンス分野の診断ツール開発を通じ、  
誰もが健やかに暮らせるための  
予防医療に貢献します

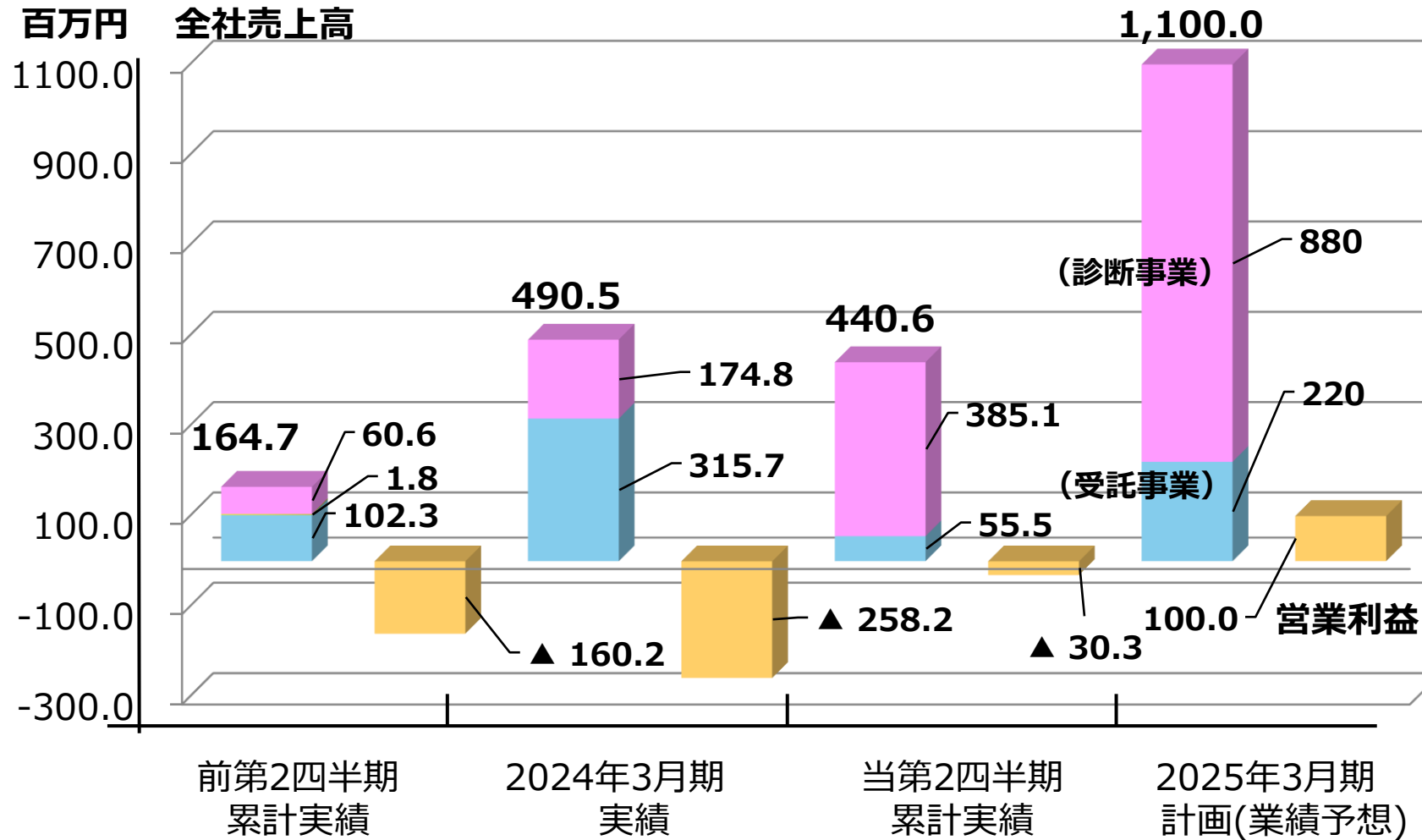


# I-1. 決算サマリー

	前第2四半期累計	当第2四半期累計	前年同期比
売上高 (百万円)	164.7	<b>440.6</b>	167.5%
営業利益 (百万円)	△ 160.2	△ <b>30.3</b>	81.0増減
経常利益 (百万円)	△ 160.9	△ <b>30.4</b>	81.1増減
当期純利益 (百万円)	△ 161.8	△ <b>31.6</b>	80.4増減
研究開発費 (百万円)	28.8	<b>69.4</b>	140.9%
総資産 (百万円)	706.6	<b>966.6</b>	36.7%
純資産 (百万円)	548.7	<b>700.6</b>	27.6%
発行株式数 (株)	6,353,064	<b>6,767,174</b>	
1株当たりの純資産額 (円)	86.42	<b>103.53</b>	19.7%
1株当たりの当期純利益 (円)	△ 25.48	△ <b>4.68</b>	
自己資本比率 (%)	77.6	<b>72.4</b>	△ 6.7pt

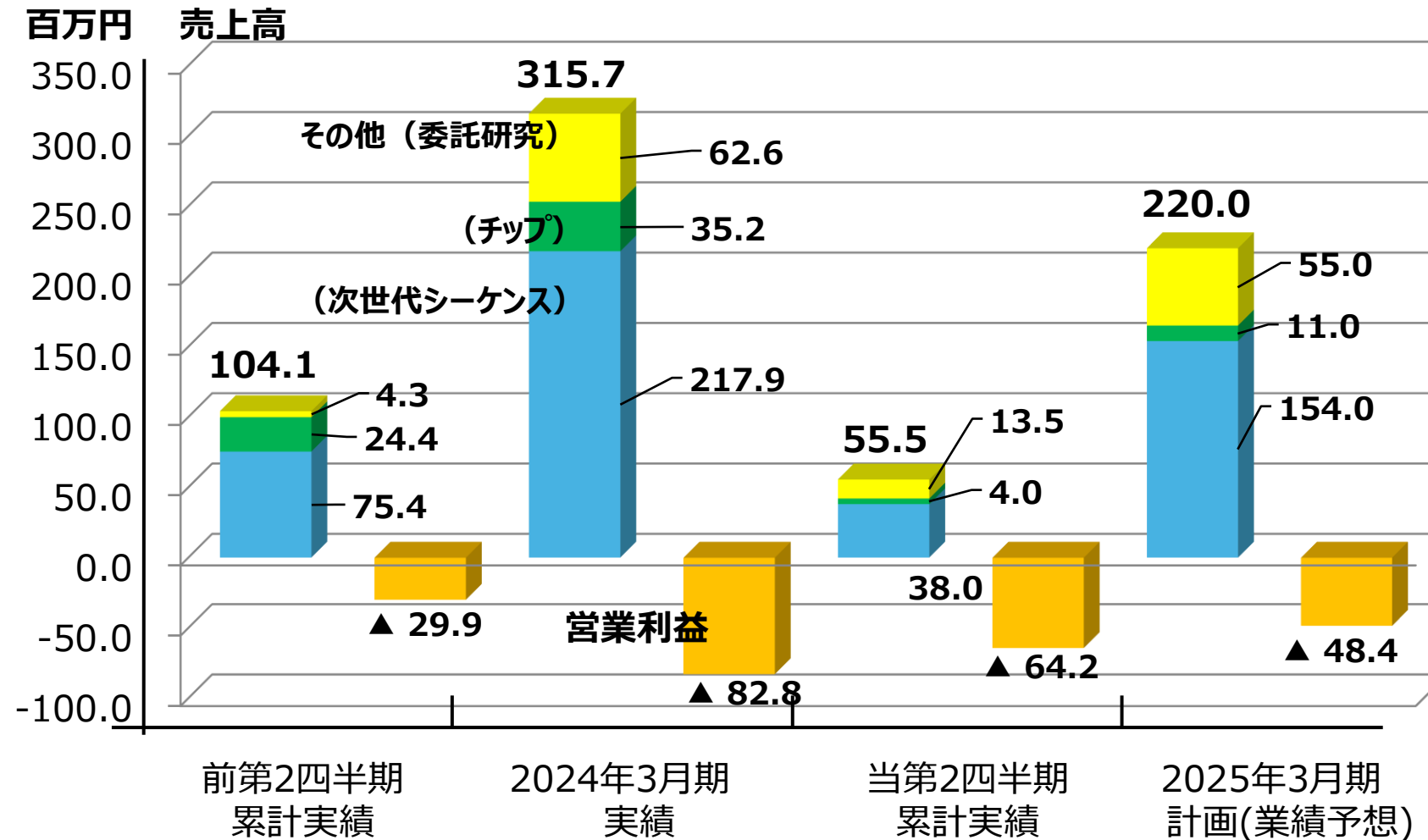


# I-2. 全社業績推移



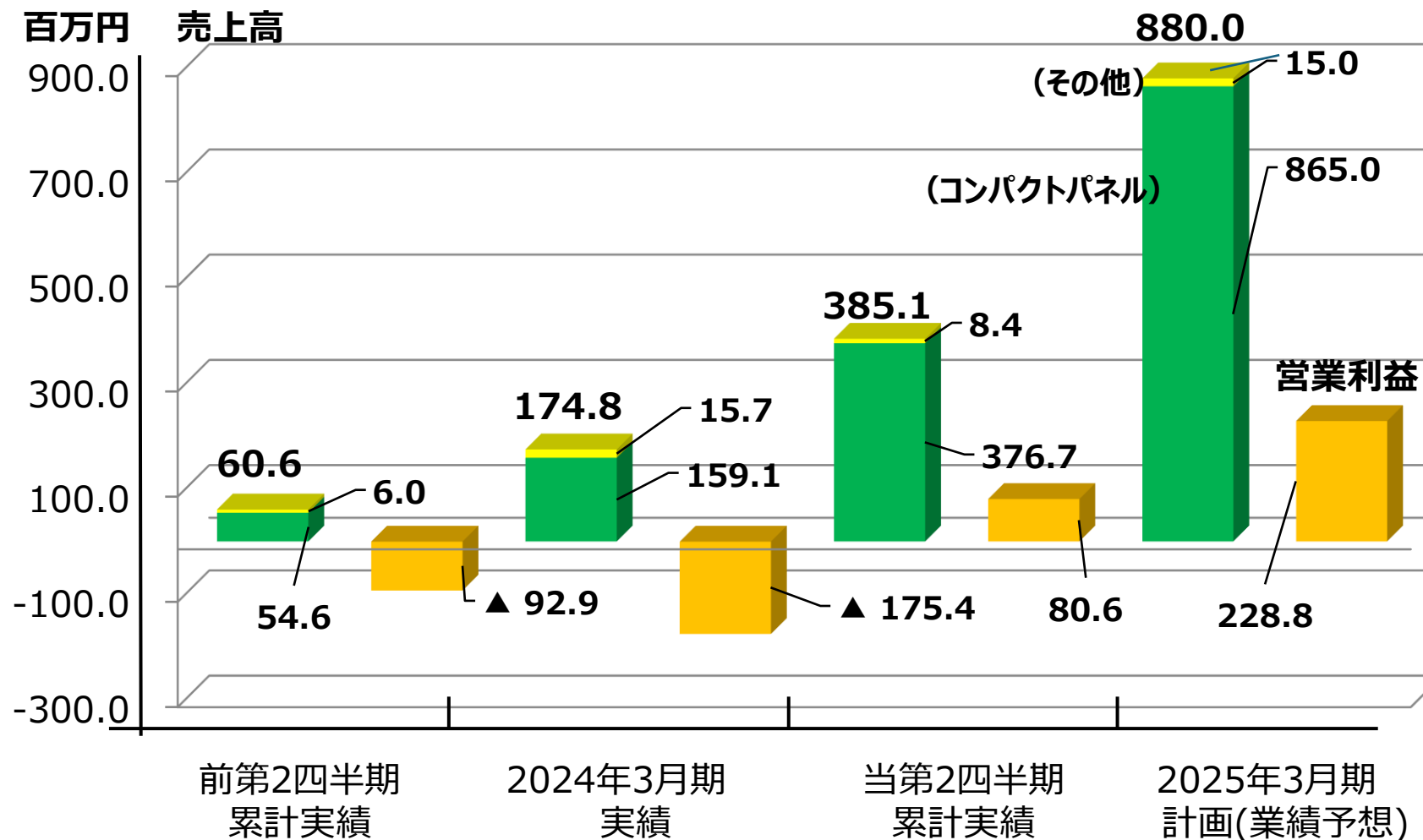
◆ 診断事業部における肺がんコンパクトパネルのサービスが全社の売上に貢献。

# I-3. 研究受託事業 業績推移



● 研究受託事業におきましては、前年度と比較しDNAチップ解析サービスの売上が大きく落ち込みました。

# I-4. 診断事業 業績推移



● 診断事業におきましては、肺がんコンパクトパネルの件数が増加し売上高が大幅に伸びました。

## 診断事業

✓肺がんコンパクトパネル診断サービスの拡大

✓その他のがん遺伝子パネル診断開発と上市へ向けた活動  
および開発パイプラインの拡充

## 研究受託事業

✓提案型受託事業の持続的成長、収益化

✓次世代シーケンス解析ビジネスの拡大



# I-6. 本社移転



2024年10月7日

各位

東京都港区海岸一丁目15番1  
株式会社DNAチップ研究所  
代表取締役社長 的場 亮  
(コード番号：2397 東証スタンダード)  
問合せ先：総務課長 大塚 勉  
電話番号：03-5777-1700 (代表)



(開示事項の経過) 本社移転完了に関するお知らせ

当社は、2024年5月10日付「本社移転に関するお知らせ」にて、本社移転をお知らせ致しましたが、本日移転が完了致しましたのでお知らせいたします。

記

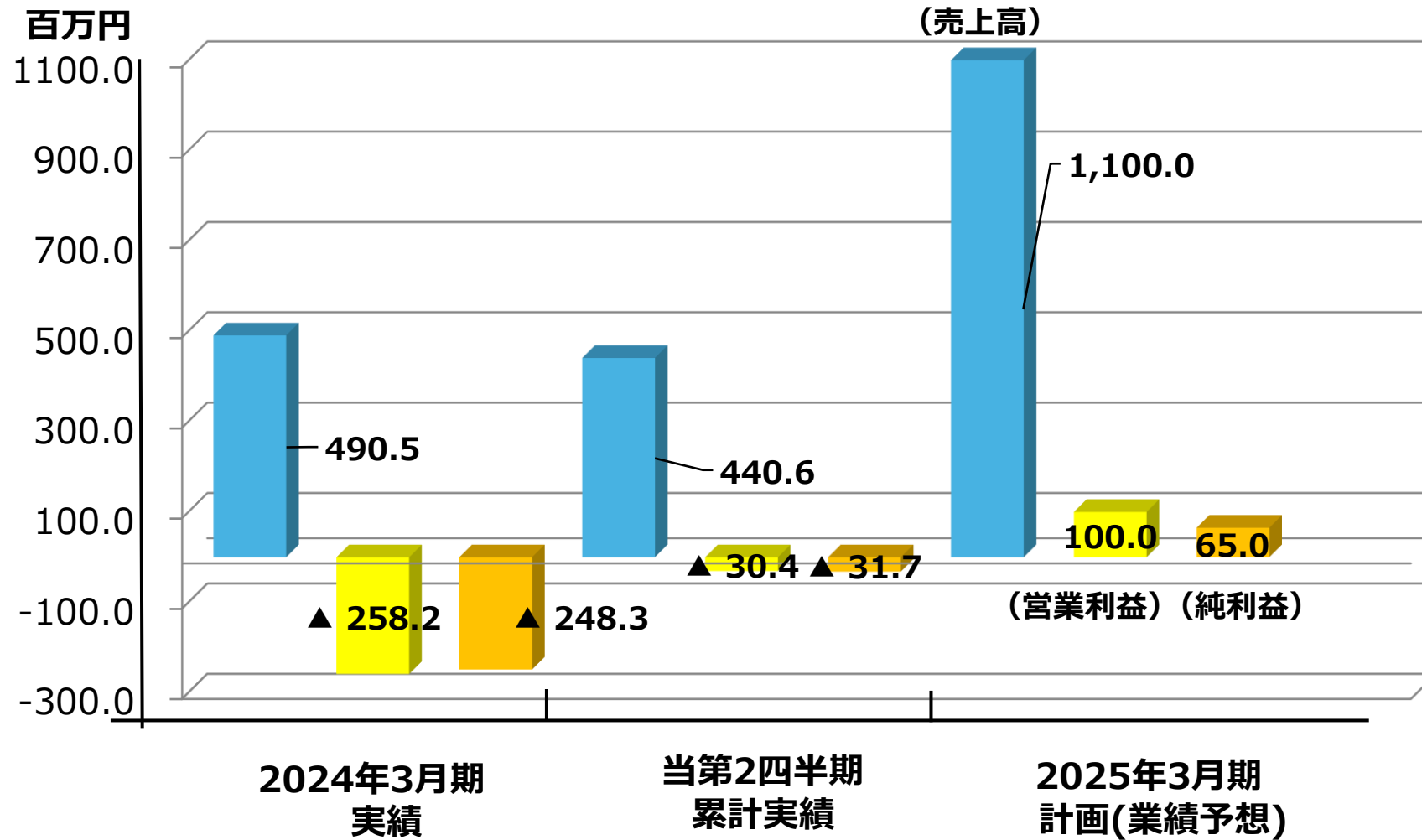
## 1. 所在地

神奈川県川崎市中原区新丸子東3丁目1200 KDX 武蔵小杉ビル9階



# I-7. 2025年第2四半期実績と

## 2025年3月期業績予想





# II. 今後の事業について

ライフサイエンス分野の診断ツール開発を通じ、  
誰もが健やかに暮らせるための  
予防医療に貢献します



[www.dna-chip.co.jp](http://www.dna-chip.co.jp)

# II-1. DNAチップ研究所の方向性

- 遺伝子（DNA・RNA）解析から、ヒトの健康・生活に新しい情報サービスを提供する
- 研究開発を通じて世の中に役立つ新しい遺伝子解析サービスを提供する

## 診断事業

### 肺がんコンパクトパネル事業の拡大

大学・研究機関との共同研究の推進  
製薬企業・検査会社との連携

### 研究用検査サービスの提供

リキッドバイオプシー独自技術  
診断解析コンサルテーション

## 研究受託事業

### 提案型研究受託サービス

臨床研究のサポートと最新遺伝子解析技術

### 次世代シーケンス受託解析サービス

発現解析、パネル解析、統計解析等の充実

### デジタルPCR等最新技術サービス

## 研究開発

### 他癌種における新パネル検査の開発

コンパクトパネルのノウハウの発展

### RNAチェック技術を用いた未病分野への展開

### 三井化学株式会社との協業

2024年度中に共同研究開発をスタート

# II-2. 肺がんにおけるコンパニオン診断の課題

## 診断事業

### 肺がんコンパクトパネル

診断薬  
増加

測定すべき遺伝子の増加

➔ シングルプレックス検査の限界

細胞量/  
腫瘍  
含有率

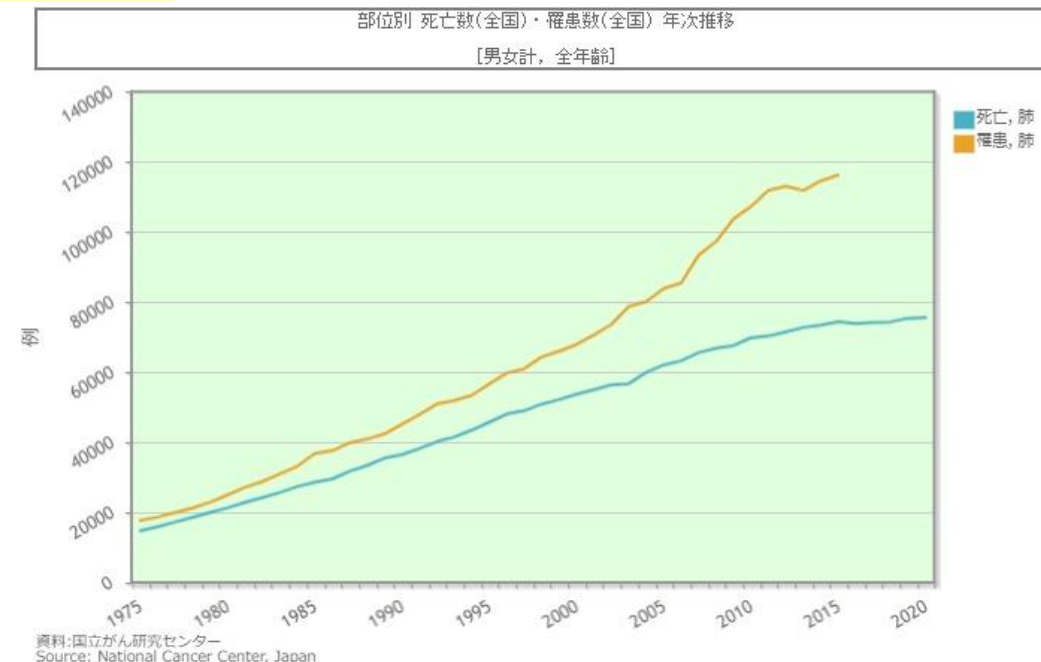
既存マルチCD x 提出検体の敷衍の高さ

➔ 十分な質の良い腫瘍細胞量と高い腫瘍含有率が必要

成功率/  
TAT

既存マルチCD x 失敗例が無視できない数存在する

➔ 長いTATの後, 失敗だと問題



年々増加する  
肺癌罹患患者

日本の肺がん診療のニーズに特化した遺伝子パネルを開発



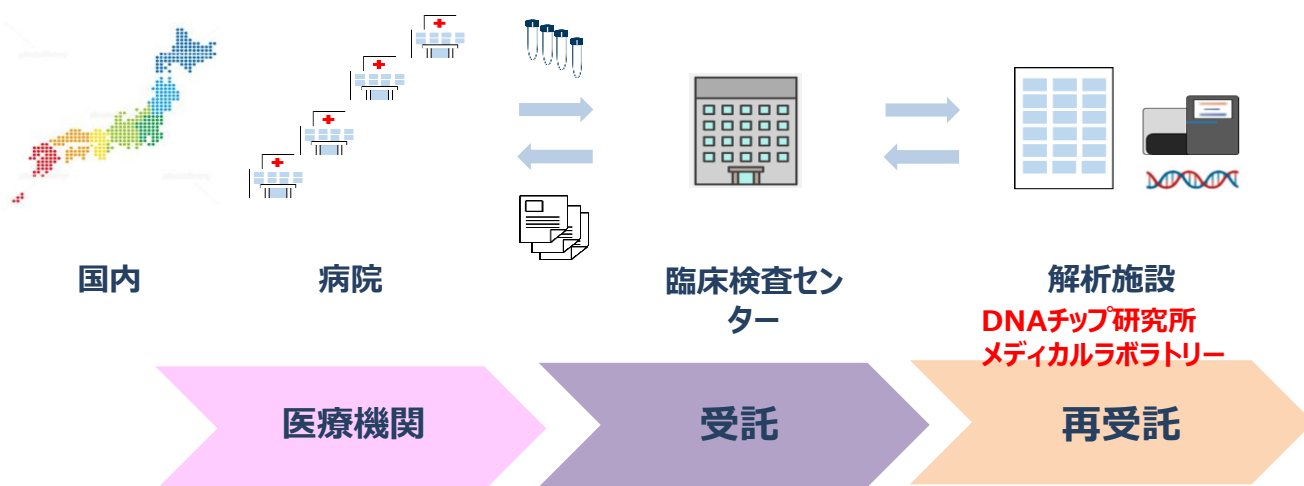
# II-3. 肺がんコンパクトパネル（7遺伝子化）

## 診断事業

### 「肺がんコンパクトパネル® Dxマルチコンパニオン診断システム」(医療機器プログラム)の一部変更申請承認のお知らせ

2024年1月29日

株式会社DNAチップ研究所(代表取締役社長:的場亮)は、2024年1月26日に「肺がんコンパクトパネル® Dxマルチコンパニオン診断システム」(以下、肺がんコンパクトパネル)の承認事項一部変更について承認を得たことを下記の通りお知らせいたします。本承認は、2022年12月16日に開示いたしました、従来の4遺伝子(EGFR、ALK、ROS1、MET)に加え、3遺伝子(BRAF、KRAS、RET)を加えるための「肺がんコンパクトパネル(医療機器プログラム)の一部変更申請」が承認されたことを示します。

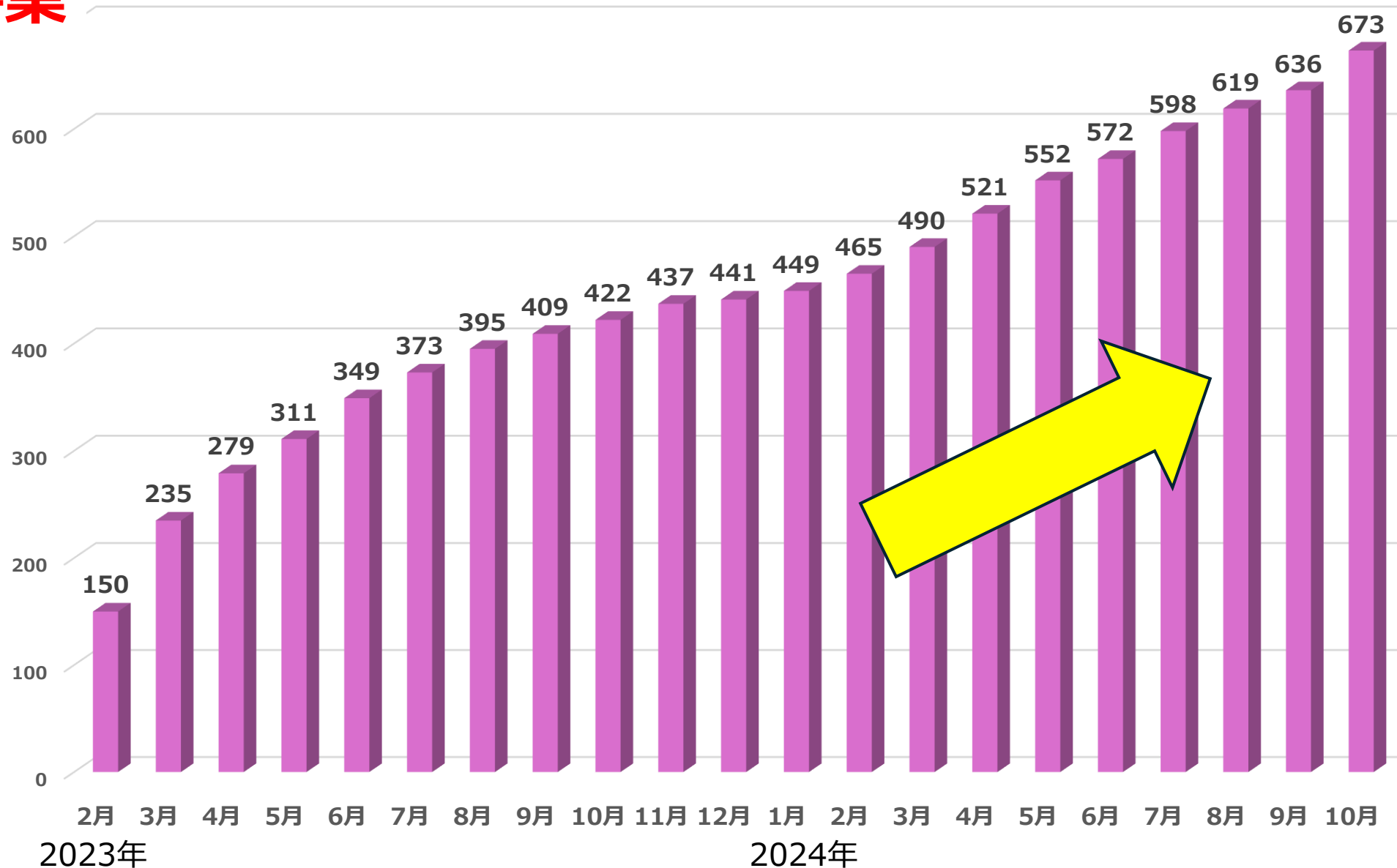


**BRAF, RET, KRASの追加  
⇒ 合計7遺伝子のコンパニオン診断**



# II-4. 肺がんコンパクトパネルアカウント登録施設数

## 診断事業

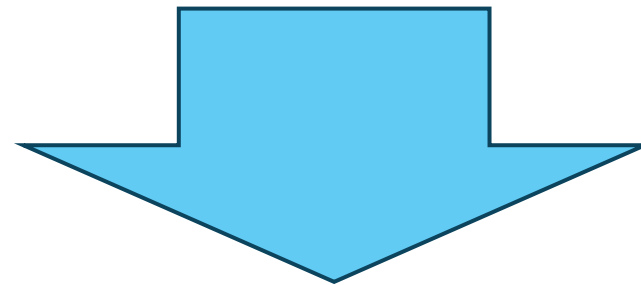


## II-5. DNAチップ研究所の特徴

- ◆ 核酸(ゲノムDNA, RNA)の測定技術・生物学的な測定意義について豊富な知識と経験をもつ
- ◆ 臨床医師との豊富な共同研究実績がある
- ◆ 自社における独自の研究開発を行う
- ◆ 診断事業のための薬事開発の実績がある

### 研究受託事業

研究開発や薬事開発の  
経験・実績・ノウハウを  
活かした事業



**最新の遺伝子解析技術による提案型受託サービス**  
**実験デザイン・検体収集・抽出・測定・データ解析**  
**診断事業につながる研究受託事業**

## 論文発表・学会発表

### 肺がんコンパクトパネル関連・論文発表

(a) 肺がんコンパクトパネルにおける遺伝子変異率と薬剤効果の関係について

Shinozaki Y, Morikawa K, Kida H, Handa H, Saji H, Nakamura S, Sato Y, Ueda Y, Suzuki F, Matoba R, Mineshita M.

A Prospective Observational Study on Analyzing Lung Cancer Gene Mutation Variant Allele Frequency (VAF) and Its Correlation with Treatment Efficacy.

Int J Mol Sci. 2024 Oct 30;25(21):11694. doi: 10.3390/ijms252111694.

### 肺がんコンパクトパネル関連・学会発表

(a) 第31回日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医大会 ランチョンセミナー: 肺癌領域におけるマルチCDx の最新情報

演題1: 肺がんコンパクトパネル® Dx マルチコンパニオン診断システムを導入してみたこと: 田宮 朗裕 先生(近畿中央呼吸器センター 腫瘍内科)

演題2: 肺癌治療の変革に翻弄されない気管支鏡検査 ~採取検体の最大活用法~: 森川 慶 先生(聖マリアンナ医科大学 呼吸器内科)

(b) 第65回日本肺癌学会学術集会 ランチョンセミナー: 肺がん遺伝子パネル検査の現状と課題克服に向けた取り組み

演題1: LCPCP(Lung Cancer Compact Panel)の最新の知見と展望: 森川 慶 先生(聖マリアンナ医科大学 呼吸器内科)

演題2: 肺癌マルチコンパニオン診断における課題: ドライバー変異陽性割合向上のために: 畑中 豊 先生(北海道大学病院 先端診断技術開発センター)

(c) 第65回日本肺癌学会学術集会 イブニングセミナー: 肺癌治療における肺がんコンパクトパネルの有用性~最新技術アップデートと性能評価~

演題1: EBUS-TBNAの細胞診塗抹標本を用いた肺がんコンパクトパネルの活用1: 古瀬 秀明 先生(国立がん研究センター中央病院 内視鏡科(呼吸器))

演題2: 細胞診検体を用いた肺がんコンパクトパネルの臨床性能評価: 國政 啓 先生(大阪国際がんセンター 呼吸器内科)

## 特許取得

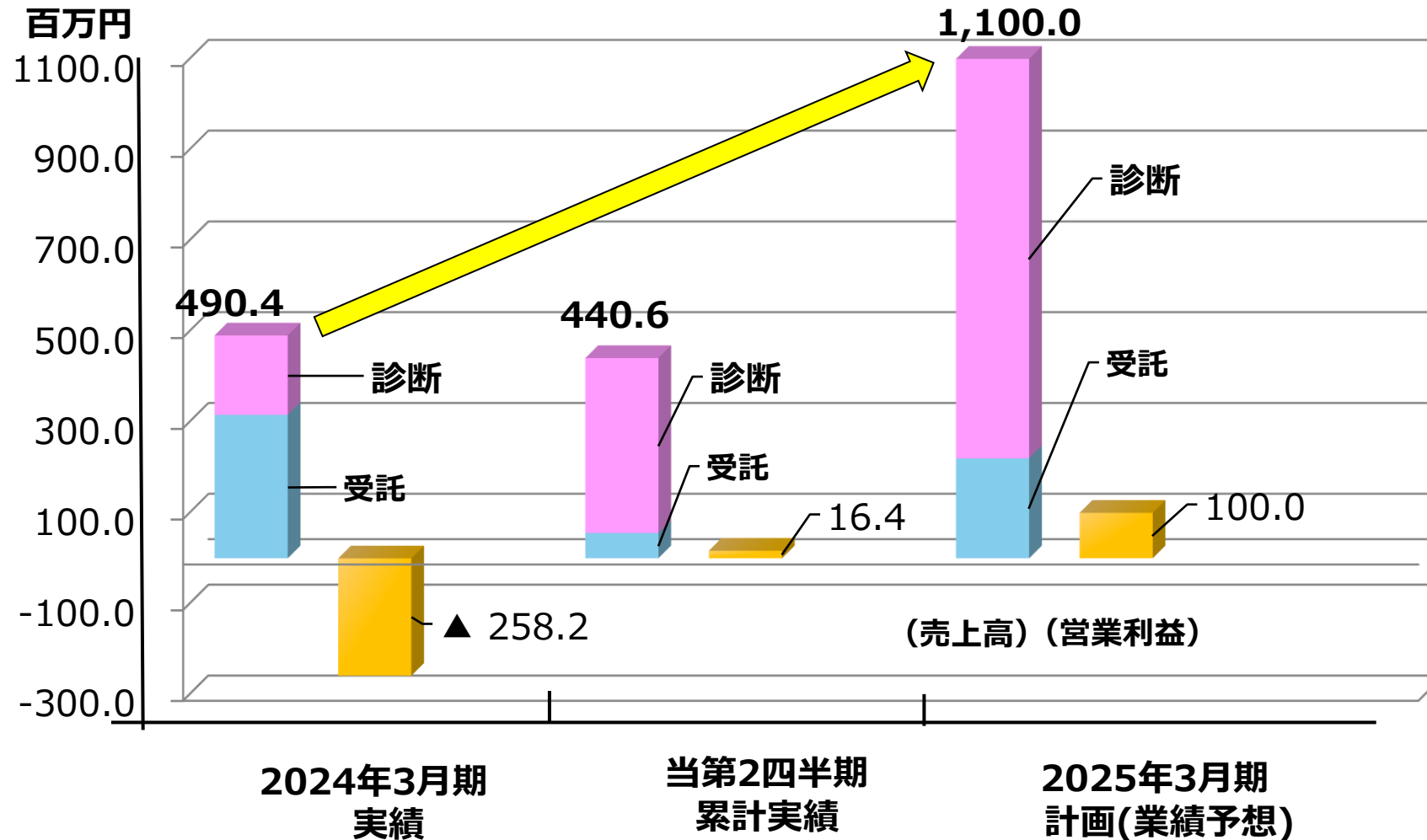
### 関節リウマチ関連

(a) 発明の名称: 関節リウマチ治療薬の奏効を予測する方法及びそれに用いるバイオマーカー

特許番号: 特許 7514458 号

特許登録日: 2024年7月3日

# II-7. 診断事業売上拡大へ向けて





ライフサイエンス分野の診断ツール開発を通じ、  
誰もが健やかに暮らせるための  
予防医療に貢献します



[www.dna-chip.co.jp](http://www.dna-chip.co.jp)